

# 句碑 村上鬼城

-須賀神社(中町)-

なつかしき

### 沼田の里の茅の輪かな

8月の祇園祭りが終わり、秋風が吹き始める9月1日、須賀神社で「茅の輪くぐり」のまつりがあります。氏は茅の輪をくぐり抜けることで疫病から免れ、すがすがしい気持ちで秋を迎えられるといい、現在も行われています。

句碑は同社の本殿裏、県指定の大ケヤキの根元に建ち、村上鬼城が「茅の輪くぐり」を詠んだものです。俳人の金子刀水と植村椀外が鬼城庵を訪ね指導を受け、「茅の輪句会」を設立。門人らにこの句の短冊を会員証のように配布しました。碑は1936(昭和11)年に建立。1963(昭和38)年に刀水が営んでいた山田屋書店から現在地に移されました。



上) 郷土色が豊かににじむ須賀神社の句碑 下) 神社に設置された茅の輪とススキを持つ巫女

厄災清め 秋を迎える

須賀神社氏子総代表・中町区長

栗原一泰さん



須賀神社の茅の輪祭りは、毎年9月1日に神社境内で行われます。鳥居のそばに、300本ほどの茅を束ねた直径約2メートルの大きさの輪が作られ、参拝者はこの輪をくぐり抜けることにより病気やけがれなどを取り除くといわれています。参拝者には、「思うこと皆つきねとて麻の葉を きり握りても祓つるかな」など三首の歌のついた茅が配られ、各家庭の厄災をはらい清めます。

## 観音霊場に漂う文化のかおり

# 句碑 松茂庵布什

-白岩堂跡-

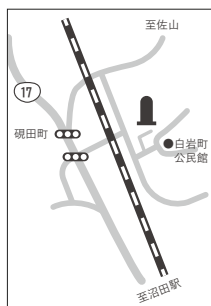
志ら 萩や  
う紀 世越  
遁類 道  
細し



句碑後ろには戸神山が見え、田園が広がる



住職の中島久太夫は、地域の俳句会の中心人物で、俳号を松茂庵布什と名乗りました。白岩堂の碑には、寿命が短いシラハギを自身の命に掛けた辞世の句が刻まれています。沼田三十三番観音札所の第二十七番所で、芭蕉句碑も見られる文化の香り高い場所です。



## 旅を好んだ父子の心

# 句碑 松永乙人・笠人

-上久屋神社-

六月を  
列になかるゝ しみつ哉  
灯りの影の夜明を  
作流さむ佐哉  
笠人  
佛も  
さらで炉端の寒かな 乙人



松永乙人・笠人の父子は、旅が好きで各地を巡って句を詠みました。碑(写真右)は辞世の句で、「しみつ」は地名の清水をかけています。乙人は文章も好み、浄瑠璃本『園原騒動』も書きました。虚弱体質の笠人は30歳で亡くなり、句は笠人の墓石(左)に記され、乙人の笠人への追悼句も刻まれています。

